

## 倫理委員会審議内容

令和2年2月20日開催

No.1	申請者 :精神科医長 久保 彩子	
課 題	医療観察法医療における治療抵抗性統合失調症のClozapineによる治療反応性について	
研究の概要	<p>Clozapine(CLZ)は治療抵抗性統合失調症(TRS)に対し唯一の適応を持つ抗精神病薬であり、わが国では2009年7月より使用可能となった。琉球病院では2010年2月から2019年8月までに延べ281人にCLZ治療を行ってきており、そのうち、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」(医療観察法)の病棟では延べ42人であった。</p> <p>医療観察法病棟を有する指定入院医療機関は、平成31年4月現在、わが国において33施設に整備されている。その入院日数は長期化傾向が続いており、その要因としてTRSや、統合失調症に知的能力障害、自閉スペクトラム症、パーソナリティ障害、物質関連障害などの他の精神障害を合併した重複障害の存在がある。現在は、指定入院医療機関の全てがClozaril Patient Monitoring Serviceに登録されており、来住らが行った2017年の全国の指定入院医療機関に対する調査では、精神科主診断が統合失調症圏である入院処遇患者のうち、38.8%がTRSであり、26.4%がCLZ治療を受けたことがあると報告した。以上より、CLZ治療は医療観察法の統合失調症治療において重要な役割を果たしていると考えられる。しかし、医療観察法医療において、CLZが使用されたTRSの患者像および経過について、一般精神科医療と比較したものはない。そこで、本研究では、当院でCLZが使用された患者の症候学、治療経過について、一般精神科病棟と比較することで医療観察法医療におけるCLZの治療効果を検討する。</p>	
判 定	承認	
利益相反審査判定		承認